

令和8年度～令和17年度
さとうきび増産に向けた取組目標及び取組計画（3期）

伊平屋島

策定主体：伊平屋村さとうきび増産プロジェクト会議

伊平屋村のさとうきびは、単収が低く利益率が低いことから、生産者は必要な生産費を投入できず生産意欲も低下し、生産振興を図る上で悪循環な生産状況となっている。

単収が低い要因のひとつは、分布している土壌の保肥力が乏しく、もともとの土地生産力が低いことであり、土づくりによる地力の向上が課題である。

また、高齢化に伴う労働力不足のため、植付け労力が確保できずに本来改植すべき低単収圃場が更新されないことも大きな要因である。

さらに、メイチュウ類による被害も単収を下げる大きな要因となっており、村独自で実施しているイネヨトウの交信かく乱防除と薬剤防除を組み合わせる被害を予防する必要がある。

伊平屋村さとうきび増産計画においては、目標達成に向けて農地への有機物の投入等の土づくりを推進し、また地力増進を図る取り組みを掲げている。農家所得の増加とさとうきび生産及び地域経済の持続的発展を目指す。

増産計画目標

(1) 生産目標

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
R6年産策定時	34	8	92	135	6.3	3.6	3.4	4.2	2,139	300	3,168	5,607	
R8年産	目標	39	8.5	90	137.5	4.5	3.2	3.7	3.8	1,755	272	3,330	5,357
R9年産	目標	37	8	95	140	4.7	3.4	3.9	4.0	1,739	272	3,705	5,716
R10年産	目標	39	8	93	140	5	3.4	4	4.1	1,900	272	3,720	5,892
R17年産	目標	36	9	85	130	5	3.2	4	4.2	1,800	288	3,400	5,488

(2) 担い手育成目標

	認定農業者			受託組織			大規模生産農家			
	R6年度策定時	-			-			3		
R8年度	目標	2			1			2		
R9年度	目標	2			1			2		
R10年度	目標	2			1			2		
R17年度	目標	2			1			2		

(3) その他地域で独自に設定する目標

		-	-	-	-
R6年度策定時		-	-	-	-
R8年度	目標	-	-	-	-
R9年度	目標	-	-	-	-
R10年度	目標	-	-	-	-
R17年度	目標	-	-	-	-

(4) 分析と評価

① 2期計画で挙げた課題

- ・高齢化の進行と担い手の不足
- ・水源整備、かんがい施設整備の遅れとほ場内の石れき除去
- ・田壌は国頭マージで耕土が浅く干ばつの被害を受けやすいうえに有機物が少ない
- ・U型ハーベスタ体系の収穫となっておりトラッシュ率が高い
- ・防風・防潮林の整備の遅れ
- ・適期植付、適期肥培管理及びかん水の不徹底

② ①で挙げた課題に対して解決に向け取り組んだ内容

- ・水源施設に関して県と調整を行い整備予算の確保を行った。石礫に関しても新規事業の計画を進めている。
- ・専門家を誘致し土壌診断を行った。

③ ①で挙げた課題のうち②により解決した課題

- ・水源施設、灌漑施設の整備についてはR7完了予定である。

④ ①で挙げた課題のうち解決できなかった課題とその要因

- ・農家の担い手不足については解決していない。
- ・耕土が硬いため根入れを深くしていない。
- ・株出し管理にて、分けつする前に覆土することにより茎数が少なくなっている。

⑤ 新たに生じた課題

- ・灌水の方法が適切に行われていないため、全体的に送水に支障をきたしており、水源の不足にも繋がっている。

⑥ 令和17年産目標に向けた現状評価及び見通し

・今後計画している土層改良マスタープランの策定により、単収があがる計画となっているが現状に引き続き農家自身の管理でも影響してくるので関係機関一同協力して維持していく必要がある。

(5) 地域重点事項（地域独自で取り組んでいる重点事項を記載）

・土作り及び肥培管理の改善

(6) 以下の項目のうち重要（特に議論するべき）と考える項目を3つ程度選択して✓を入れて下さい。

1 経営基盤の強化

- 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保
- 農業共済制度への加入促進

2 生産基盤の強化

- 気象災害に強い生産基盤の整備
- 機械化一貫体系の確立
- 地力の増進

3 技術対策

- 病虫害防除
- 台風・干ばつ対策
- 優良品種の選択・普及

4 その他（自由記述）

※✓した項目については、OPの「～～」を作成する

目標達成に向けた取組計画

I 経営基盤の強化

① 農地の利用集積、効率的なさとうきび経営の育成と労働力の確保

【現状】

- ・収穫作業はハーベスタ体系が確立されており、令和元年度より新たな法人立ち上げにより受託組織の推進を図った。また、受託組織と関係機関の機械一体化による作付け体制の構築を図り、高齢農家の作業負担の軽減に務める。
- ・地域計画の話し合いを各区にて行い、今後10年後の農地利用の計画を策定した。
- ・認定農業者等に対し、経営診断及び技術指導等を実施した。

【現状】

- ① 担い手の数：認定農業者6経営体
- ② 農業法人数：1法人
- ③ 農業法人構成員数・面積：2人・8ha

<作業受託組織の受託業務>

- ・圃場の更新に伴う耕起・砕土
- ・ビレットプランター等による植付作業
- ・ハーベスターによる収穫作業

【課題】

- ・ 農家高齢化及び新規就農者等担い手の不足に伴い、安定的な農業経営体の育成のため、農業法人等の設立が必要である。
- ・ 担い手不足解消のため、認定農業者数の増加を図る必要がある。
- ・ 管理作業及び受託組織の整備を推進する必要がある。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 受託組織の増加を図り、農家の作業効率を上げるようにする。
- ・ 策定された地域計画に伴い、毎年の内容の更新と農地集約に向けて農家、地権者との調整を進めていく。
(村、農業委員会、JA、生産農家、土地改良区)

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 地域計画における話し合いを各区協議2回実施する。
- ・ 受託組織と関係機関の機械一体化による作付け体制の構築を図り、高齢農家の作業負担の軽減に務める。

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 地権者と耕作者の調整を行い、地域計画の更新及び担い手への農地集積を進める。

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

I 経営基盤の強化

② 農業保険の加入促進

【現状】

伊平屋村の現在の畑作物加入状況としては、戸数加入率が72.5%（H26）から36%と約半分ほどに減少している。面積加入率も75.8%（H26）から46.9%（R5）へ減少している。収入保険の加入数は現在1戸である。

<畑作物共済加入状況>

	H26	R3	R4	R5
加入戸数（戸）	37	19	17	18
戸数加入率（%）	72.5	34.5	34.0	36.0
加入面積（ha）	92.6	63.4	53.0	75.2
面積加入率（%）	75.8	37.7	33.1	46.9
支払金額（千円）	3,213	294	3,288	1,153

<収入保険制度への加入状況>

	R5
加入戸数（戸）	1
引受面積（ha）	6.4
面積加入率（%）	6.1

【課題】

- ・ 台風、干ばつ等の自然災害を受けやすい地域であるため、より一層の加入促進を図る必要がある。
- ・ 小規模生産農家の加入率が低い。
- ・ 共済制度への理解不足。
- ・ 共済の掛け金に関して農家の方が負担と感じていることが多いため加入に関して難しい傾向である。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 加入率を上げるため共済の方と連携し勉強会や制度の理解を深める必要がある。（村、JA、共済組合）
- ・ 農家への農業保険加入促進のため、説明会の開催。（村、JA、共済組合）

【計画】

＜短期計画＞ ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 共済制度への理解を得るため、支部単位での共済制度説明会を開催し、加入推進に努める。
- ・ 生産組合の活動等と連携して、制度の周知、加入推進を図る。

＜中・長期的な計画＞ ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 加入率と面積加入率を50%以上を目標とする。

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

① 気象災害に強い生産基盤の整備

【現状】

・ほ場整備、水源整備、かんがい排水、農道整備事業の生産基盤整備事業を計画的に推進した。北部灌漑施設の故障・劣化等による箇所での修繕の確認を行い、令和7年度にて工事修繕を行う予定としている。

< 農業基盤整備の状況 >	R5年度
・土地基盤整備率：	95.4%
・畑地灌漑整備率：	88.7%
・水源整備率：	95.6%
・農地防風林整備率：	93.6%

【課題】

- ・ 水源整備、かんがい施設整備を引き続き推進し、干ばつ等による被害軽減を図る必要がある。
- ・ 農地防風林の整備・管理が必要である。
- ・ 耕土流出を防ぐため、グリーンベルトの設置が必要である。
- ・ II型給水栓の整備は進んでいるものの、かん水資材が不足している。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・ 水源整備、かんがい施設整備を引き続き推進し、干ばつ等による被害軽減を図る必要がある。（村、土地改良区）
- ・ 農地の見回りや、村内放送・農家同士での声かけ等を行うよう周知している。（村、土地改良区、生産組合）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・ 北部灌漑施設の故障・劣化等による箇所での修繕の確認を行い令和7年度にて工事修繕を行う予定としている。
- ・ 各地区にて改めて灌漑施設の使用方法を有識者を誘致し説明会・研修を行う。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・ 灌漑施設の有料化に伴う管理と運営

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

② 機械化一貫体系の確立

【現状】

- ・ ほぼ100%ハーベスタ収穫のため、ほ場に硬盤ができやすい状況。
- ・ オペレータ技術向上のため、農業機械操作技術研修会等への派遣を検討。
- ・ 作業の機械化状況を把握するため、さとうきび収穫機械稼働状況調査を実施
- ・ ピレットプランターを委託し、植付の効率化を図った。

(農業機械等の稼働状況)

	機械名称	稼働台数(台)	稼働面積率(%)
H26	ハーベスタ	4	100
	株出管理機	1	7
	プランタ	30	90
R6	ハーベスタ	4	100
	株出管理機	3	—
	ピレットプランタ	1	11

【課題】

- ・効率的な機械収穫のための雑草防除を徹底する必要がある。
- ・オペレータの技術向上のため、収穫機械の研修等を継続する必要がある。
- ・株出管理機による適期株出管理作業の徹底を図る。
- ・収穫面積の増加、作型や品種の変化、ビレットプランターとの連携等を見据え、既存のハーベスターの機能向上・強化対策および高性能ハーベスターの導入が必要。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・農業機械操作技術研修会等を開催し、オペレータの育成・技術向上を図る（村、JA）。
- ・株出管理機の導入を図り、適期作業を推進する（JA、村）。
- ・適期作業を推進するため、受委託組織の育成を図るとともに、作業の委託推進を図る（村、JA）。
- ・ハーベスター導入による株出管理等の機械一貫体系の確立を図り、農家の労力軽減と早期株出ほ場の単収増加の推進を図る。（村、JA）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・小型ハーベスター、トラクタ、マニュアルプレッターの導入

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・トラクター用アタッチメントの導入及び更新

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

2 生産基盤の強化

③ 地力の増進

【現状】

- ・伊平屋島の土壌は、国頭マージであり、有機物が少ないため地力が低い。また、他地区と比較して、表土が浅く、礫も多い。
- ・専門家を誘致し土壌分析を行った。
- ・併せて、土作り講習会とプラソイラの実証を農家向けに行った。
- ・土作り指針、土層改良マスタープランの策定を開始。

【課題】

- ・堆肥投入による単収増加効果はすぐには見られないため、継続的に農家へ土づくりに対する意識高揚を図る必要がある
- ・緑肥等による継続的な土づくりの推進を図る。
- ・堆肥センターが令和3年度より稼働し始めたが、圃場への堆肥散布能力の向上および効率的な散布体系の構築が課題

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・土づくりの意識高揚を図る。
- ・農地への堆肥投入、緑肥栽培を推進する。
- ・堆肥センターの堆肥の活用により有機物の投入を推進するが、原料が足りないことが課題。
- ・伊平屋村の生産規模に適したマニュアルスプレッター等の導入を検討する。

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・講習会の開催2回
- ・土壌分析受診率の増加

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・講習会を毎年2回
- ・土壌分析受診率を50%以上を目指す
- ・島外からの堆肥原料の購入を行い、堆肥の生産量を増やす

【自由記述欄】※例) 国補正事業(生産対策)のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

① 病虫害防除

【現状】

- ・病虫害に抵抗性のある品種の導入が必要である。
- ・適期防除、一斉防除が必要である。
- ・一括交付金事業を活用し、イネヨトウ防除対策としてフェロモンチューブを使い、誘殺を行っている
- ・イネヨトウ防除講習会の開催
- ・病虫害防除に関する技術講習会の開催
- ・バッタの一斉防除
- ・薬剤の講習会を実施

【課題】

- ・バッタの発生抑制のため、畜産農家（草地所有）との防除連携が必要
- ・イネヨトウ防除の効果検証
- ・防除費の補助事業の導入

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・各生産部会との連携・協議を強化し、防除体制の確立を図る。（村、JA、生産組合）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・イネヨトウ効果検証を行い、必要であれば別の補助事業へ切り替える。
- ・病虫害防除講習会等により、効果的な防除法の周知に努める。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・病虫害被害軽減のため、誘殺トラップ等による調査を行い、早期防除や共同防除を推進する。
- ・病虫害の一斉防除を行うため、関係機関との体制づくりを強化する。
- ・防除費にかかる補助事業の導入

【自由記述欄】 ※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

② 台風・干ばつ対策

【現状】

- ・近年では台風影響は令和5年度にあり、それ以降は台風の影響は少ない傾向にある
- ・干ばつに関しては毎年起きている状況で北部灌漑設備の劣化・故障等により圃場に影響を受けている地区がある。また、灌漑の仕方にも問題があり貴重な水源の確保に苦慮している。

【課題】

- ・全体的に作土深が浅い傾向にあるため、台風の影響があると倒れやすい
- ・干ばつ前の初動と起きた際の灌漑方法について農家の方に勉強会をする必要がある
- ・一部地域において灌漑設備がないため整備を進める必要がある

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・心土破碎の普及を広げる。（村、JA、普及）
- ・有識者を招いて説明会及び講習会の継続を図る。（村、JA、普及）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃に実施する予定の取組を記載

- ・灌漑設備の整備（一部地区）
- ・灌漑設備の使用方法等地区説明会を行う。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・農家同士の管理意識の普及
- ・灌漑設備がない地域への新規設備の導入

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイデア、要望等

—

目標達成に向けた取組計画

3 技術対策

③ 優良品種の選択・普及

【現状】

- ・ 県の種苗事業を活用し、原種ほを設置し、無病健全苗の供給と普及に努め、現在、原種ほ90aを確保し普及を行っている。
- ・ 品種の種類としては、H26はNi15が約半分を占めていたが、R6はNi27が多く、20%を占め、次にNi22が16%となっている。

<品目別作付面積割合(%)の推移>

品種	H26	R6
Ni9	3.7	-
Ni15	54.2	9.6
Ni17	5.6	-
NiTn20	11.9	-
Ni22	4.0	16.3
Ni27	-	20
その他	20.6	73.3

【課題】

- ・新規に改良された種苗の普及が少ない。
- ・単収が低いとため、増加に繋がる品種の導入検討。

【課題に対応した取組及びその実施者】

- ・黒糖向け品種、台風及び干ばつ等に強い品種の導入のため、品種選定試験等の実施が必要である。（村、JA、生産農家）

【計画】

<短期計画> ※今年度か来年度頃を実施する予定の取組を記載

- ・健全無病苗の利用に対する生産農家への啓発を継続する。
- ・黒糖向け品種や台風、干ばつ等に抵抗性のある品種を選定するため品種選定試験を実施し、伊平屋村さとうきび奨励品種を定め、普及推進を図る。

<中・長期的な計画> ※3～5年後、又は目標年度を見据えて実施すべき取組を記載

- ・品種選定試験で選定した黒糖向け品種、台風及び干ばつ等に強い品種の普及推進を図る。

【自由記述欄】※例) 国補正事業（生産対策）のメニュー拡充のアイディア要望等

—

重点課題における関係者の役割分担と実施状況

※令和7年度に3期目計画を立てる際は、右側の「今年度の具体的な取組計画」のみ記入。

重点項目：機械化一貫体系の確立

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
伊平屋村					・機械一貫化体系確立による機械等の事業導入	・機械一貫化体系の確立
普及センター					・事業導入等への協力 ・事業効果の検証、事後指導	・機械一貫化体系の確立
JA 伊平屋支店					・機械一貫化体系確立による機械等の事業導入	・機械一貫化体系の確立
JA伊平屋支店 製糖工場					・オペレータ講習会の開催	・機械一貫化体系の確立
農業委員会					・農地の流動化の促進 ・耕作放棄地の解消	・機械一貫化体系の確立

重点項目：地力の増進

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
伊平屋村					・展示ほの設置	・地力増進
普及センター					・展示ほの設置、指導 ・技術講習・実演会 ・土壌分析調査等	・地力増進
JA 伊平屋支店					・生産資材等の提供	・地力増進
JA伊平屋支店 製糖工場					・生産基盤整備等への協力	・地力増進
農業委員会					・農家巡回指導	・地力増進

重点項目：病虫害防除

機関名	前年度の取組について			取組の反省点・改善すべき点	今年度の具体的な取組計画	
	具体的な取組内容	設定した目標	自己評価		具体的な取組内容	設定する目標
伊平屋村					・病虫害防除対策	・病虫害被害低減
普及センター					・講習会、防除周知 ・農家巡回指導	・病虫害被害低減
JA 伊平屋支店					・病虫害防除対策事業導入	・病虫害被害低減
JA伊平屋支店 製糖工場					・病虫害の事前発生の 確認連携	・病虫害被害低減
農業委員会					・農家巡回指導	・病虫害被害低減

さとうきび関係事業の活用実績（R7年度～）

【国補正事業（生産対策）】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【セーフティネット事業】

事業年度	取組内容	計画額	うち補助金	実績額
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

【実証・研究事業（国事業・県事業）、一括交付金事業】

事業年度	事業名	取組内容	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【機械導入（国事業・県事業）】

事業年度	事業名	導入機械	総事業費	補助金	その他
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

【市町村単独事業】

事業年度	市町村名	事業名	取組内容	予算額	実績額
-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-

(参考情報①)

1. 県(島)の概況、農業・さとうきび作の位置づけ等

伊平屋村は沖縄県最北端、東シナ海洋上に浮かぶ離島村である。北緯27度2分、東経127度58分に位置し、県都那覇市より北へ117km、フェリー発着の運天港より41.1kmの距離にあり、伊平屋島、野甫島の2島からなる。村の総面積は、21.72km²で、その約68%を山林原野で占め、約22%が農耕地である。

年間平均気温22.7℃、年間降雨量は1,793mmで比較的多雨地域であるが、梅雨期と台風襲来時に集中しており、夏から秋にかけては、しばしば干ばつに見舞われる。伊平屋村の農業生産は、さとうきび、水稻を基幹作物とし、次いで肉用牛、野菜等の生産が行われている。また、最近では、果樹及び施設園芸が意欲的に取り組まれている。

2. さとうきび生産の現状

生産の現状

伊平屋島を分布している土壌は、有機物が少ない国頭マージであり、表土が浅く、礫も多い。また、近年の高齢化に伴う労働力不足により、低単収ほ場が更新されていないことなどから、伊平屋村のさとうきびは他地区と比較して単収が低い状況となっている。

【近年の作物別作付面積の動向】

(1) 作物別作付け面積の動向

	耕地面積	作付面積	耕作放棄地	さとうきび	かんしょ	水稻	野菜	飼料作物	その他
H17	309	316		157	3	127	8	17	2
H18	301	322		156	1	127	8	23	5
H19	308	326		164	1	121	8	24	6
H20	309	331		168	3	121	8	29	5
H21	342	344		176	9	109	13	29	5
H22	347	344		176	10	92	21	34	7
H23	345	318		159	5	90	14	40	6
H24	344	317	33	162	3	88	12	43	6
H25	345	294	30	147	2	80	11	48	4
H26	348	331	27	178	6	77	14	48	4
H27	350	325	24	179	3	73	14	48	8
H28	337	325	19	187	3	65	14	48	8
H29	335	335	19	193	5	60	16	53	8
H30	333	343	18	205	6	54	15	53	10
R元	331	344	17	207	6	53	16	52	10
R2	331	368	12	223	7	48	16	55	11
R3	325	357	11	208	5	53	20	60	11
R4	325	364	12	228	6	47	19	59	5
R5	354	336	33	227	4	61	18	57	6
R6	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(2) さとうきびの収穫面積、単収、生産量、糖度の推移

	収穫面積 (ha)				単収 (t/10a)				生産量 (t)				糖度
	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	夏植	春植	株出	合計	
H17	57	3	7	67	3.7	2.6	2.3	3.5	2111	73	152	2336	12.6
H18	65	4	5	74	4.9	2.7	4.0	4.7	3171	108	200	3479	14.5
H19	67	3	20	90	6.1	4.6	4.5	5.7	4090	135	909	5134	15.2
H20	44	5	35	84	6.7	3.6	5.0	5.8	2946	193	1772	4911	15.2
H21	60	6	40	106	4.9	3.3	4.3	4.6	2908	181	1720	4809	14.7
H22	58	6	30	94	4.8	2.8	5.0	4.7	2778	153	1481	4412	14.3
H23	37	12	29	78	2.8	1.6	1.9	2.2	1013	200	544	1757	14.5
H24	54	12	28	94	3.4	2.5	2.2	2.9	1826	311	600	2737	12.0
H25	37	3	27	67	3.6	2.1	2.3	3.0	1306	69	610	1985	14.0
H26	63	8	35	106	3.8	2.0	2.5	3.3	2412	162	867	3441	14.0
H27	46	11	64	121	4.6	2.4	3.1	3.6	2130	260	1971	4361	14.6
H28	46	15	70	131	6.3	4.1	3.5	4.6	2920	602	2481	6003	15.3
H29	41	25	90	156	4.8	2.6	3.0	3.4	1966	656	2775	5397	13.5
H30	37	18	113	168	4.3	2.7	3.6	3.7	1581	477	4079	6137	13.5
R元	26	12	95	133	4.7	3.3	2.8	3.2	1239	391	2606	4236	13.9
R2	42	23	93	158	4.3	2.1	3.1	3.3	1839	495	2954	5288	15.5
R3	31	15	95	141	3.9	3.0	2.7	3.0	1218	444	2620	4282	15.8
R4	44	2.6	92	139	4.9	3.4	3.2	3.7	2156	89	2957	5202	15.1
R5	40	7.6	92	140	3.3	2.7	2.6	2.8	1303	204	2427	3934	16.1
R6	34	8.3	92	135	6.3	3.6	3.4	4.2	2139	300	3168	5607	15.7

(参考情報②)

【年齢階層別農家戸数】

	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
H17	0	1	16	16	27		60
H18	0	1	15	16	29		61
H19	2	2	15	22	30		71
H20	1	2	11	23	34		71
H21	0	1	8	15	34		58
H22	0	1	7	14	34		56
H23	0	0	6	18	30		54
H24	0	0	4	21	33		58
H25	0	0	2	16	32		50
H26	0	0	2	19	32		53
H27	0	0	5	13	34		52
H28	0	0	5	11	34		50
H29	0	0	3	10	36		49
H30	0	3	3	7	40		53
R元	0	3	3	7	39		52
R2	0	3	3	7	39		52
R3	0	2	4	3	38		47
R4	0	2	3	4	38		47
R5	0	3	1	6	38		48
R6	0	3	0	7	37		47

【経営（収穫）規模別農家戸数】

	100a未満	100～300a 未満	300～500a 未満	500a以上	合計
H17	23	36	12	3	74
H18	23	34	4	0	61
H19	28	28	4	0	60
H20	28	28	4	0	60
H21	16	26	7	2	51
H22	21	30	8	2	61
H23	22	26	7	2	57
H24	23	26	7	2	58
H25	6	31	12	2	51
H26	17	26	10	3	56
H27	12	25	9	6	52
H28	12	26	10	3	51
H29	4	25	12	10	51
H30	4	20	18	13	55
R元	8	16	10	10	44
R2	4	13	22	13	52
R3	2	23	13	9	47
R4	2	23	13	9	47
R5	4	25	11	6	46
R6	4	25	12	6	47

【製糖工場の操業状況】

	操業率 (%)	操業期間 (日)	歩留 (%)	トラッシュ率 (%)
H17	46.7	47	12.9	26.7
H18	69.6	62	14.3	22.9
H19	102.7	91	15.1	20.4
H20	98.2	89	14.3	20.3
H21	96.2	90	13.5	21.6
H22	88.2	76	13.6	21.0
H23	35.2	34	11.8	26.4
H24	54.7	55	11.6	29.7
H25	39.7	41	12.7	26.5
H26	68.8	66	13.5	25.1
H27	74.0	93	13.6	23.8
H28	93.3	110	12.8	22.2
H29	132.5	100	11.9	21.4
H30	95.9	128	11.8	21.4
R元	91.5	86	11.0	21.7
R2	66.1	115	12.1	17.0
R3	70.0	70	11.5	16.2
R4	69.3	121	10.9	12.3
R5	71.0	83	10.4	12.5
R6	86.1	130	12.5	11.7

(参考情報③)

【作業受託組織の状況】

	農作業受託組織数			農作業受託調整組織の有無と役割		
	合計	組織	個人	有無	名称	役割
R7	2	2	0	有	J Aおきなわ伊平屋支店	申込窓口、 作業日程マッチング

【作業委託料金】

作業名	料金(円)	料金の設定方法及び島内の料金体系	備考
収穫	6,000	—	トン当たり
植付	80,000	—	10a当たり
株出管理	—	—	—
防除	—	—	—
その他	—	—	—

(参考情報④)

【畑地かんがいの整備状況】

	貯水施設		畑地かんがい 整備率	かん水方法			畑地かんがい整備の現状と 整備率向上に向けた今後の取組
				形態	使用料金	使用条件等	
R6	地下ダム	－	84.70%	Ⅱ型	－	－	灌漑排水事業の推進
	ダム	－					
	ため池	2地区					
	その他	2地区					

(参考情報⑤)

【共済加入目標】

	H26	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	56	45	45	45	45	45	45
加入戸数	37	15	15	16	17	20	25
戸数引受率(%)	66.1	33.3	33.3	35.6	37.8	44.4	55.6
対象面積(ha)	105.8	139.6	139.6	139.6	139.6	139.6	139.6
引受面積(ha)	92.6	45.1	48.4	50	51	54	59
面積引受率(%)	87.6	32.3	34.7	35.8	36.5	38.7	42.3
支払金額(千円)	3,213	-	-	-	-	-	-

【収入保険制度への加入目標】

	H30	R6	R7	R8	R9	R12	R17
有資格戸数	0	45	45	45	45	45	45
加入戸数	0	2	2	2	3	6	11
引受面積(ha)	0	15.3	15.3	15.3	16	19	24
面積加入率(%)	0	11.0	11.0	11.0	11.5	13.6	17.2

(参考情報⑥)

【作型別割合】

	夏植(%)	春植(%)	株出し(%)
H17	85.1	4.5	10.4
H18	87.8	5.4	6.8
H19	74.4	3.3	22.2
H20	52.4	6.0	41.7
H21	56.6	5.7	37.7
H22	61.7	6.4	31.9
H23	47.4	15.4	37.2
H24	57.4	12.8	29.8
H25	55.2	4.5	40.3
H26	59.4	7.5	33.0
H27	38.0	9.1	52.9
H28	35.1	11.5	53.4
H29	26.3	16.0	57.7
H30	22.0	10.7	67.3
R元	19.5	9.0	71.4
R2	26.6	14.6	58.9
R3	21.8	10.6	67.6
R4	31.7	1.9	66.5
R5	28.7	5.4	65.8
R6	25.3	6.2	68.5
R17(目標)	27.0	7.0	66.0

【株出し回数別面積】

	株出し回数別面積 (ha)							平均回数
	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	
H17	7	0	0	0	0	0	0	1.00
H18	5	0	0	0	0	0	0	1.00
H19	20	0	0	0	0	0	0	1.00
H20	35	0	0	0	0	0	0	1.00
H21	40	0	0	0	0	0	0	1.00
H22	17	9	3	1	0	0	0	1.60
H23	19	8	2	0	0	0	0	1.41
H24	21	8	0	0	0	0	0	1.28
H25	27	0	0	0	0	0	0	1.00
H26	29	6	0	0	0	0	0	1.17
H27	62	0	2	0	0	0	0	1.06
H28	43	23	5	0	0	0	0	1.46
H29	61	21	9	0	0	0	0	1.43
H30	42	35	28	7	1	0	0	2.03
R元	30	55	9	0	0	0	0	1.78
R2	36	27	31	0	0	0	0	1.95
R3	44	29	17	5	0	0	0	1.82
R4	46	40	6	0	0	0	0	1.57
R5	45	40	6	0	0	0	0	1.57
R6	45	34	13	1	0	0	0	1.68
R17	43	27	16	4	0	0	0	1.79

(参考情報⑦)

【近年の品種別収穫面積の推移】

作型	夏植						春植						株出し						合計					
	品種	Ni15	Ni22	Ni27	Ni28	Ni29	その他	Ni15	Ni22	Ni27	Ni28	Ni29	その他	Ni15	Ni22	Ni27	Ni28	Ni29	その他	Ni15	Ni22	Ni27	Ni28	Ni29
H17	16	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	5	19	-	-	-	-	48
H18	24	-	-	-	-	4	2	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	3	28	-	-	-	-	47
H19	33	-	-	-	-	34	2	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	14	42	-	-	-	-	48
H20	19	-	-	-	-	25	2	-	-	-	-	3	11	-	-	-	-	24	32	-	-	-	-	53
H21	34	-	-	-	-	26	2	-	-	-	-	4	18	-	-	-	-	22	53	-	-	-	-	52
H22	37	-	-	-	-	21	2	-	-	-	-	4	15	-	-	-	-	15	54	-	-	-	-	39
H23	29	-	-	-	-	8	10	-	-	-	-	2	22	-	-	-	-	7	61	-	-	-	-	17
H24	23	3	-	-	-	28	7	0	-	-	-	5	12	1	-	-	-	15	41	5	-	-	-	49
H25	10	5	-	-	3	19	1	1	-	-	0	1	6	4	-	-	-	17	17	10	-	-	3	37
H26	18	14	-	-	3	28	4	1	-	-	-	3	7	5	-	-	1	22	29	20	-	-	4	53
H27	11	6	-	-	-	29	2	2	0	-	-	9	11	7	-	-	1	45	24	15	0	-	1	80
H28	10	6	8	1	1	20	1	1	1	1	0	11	10	10	1	0	1	48	22	17	11	2	2	77
H29	8	4	1	0	-	28	1	3	1	2	1	17	12	12	13	3	1	49	21	19	15	5	2	95
H30	6	4	5	3	0	19	1	1	1	0	0	15	7	9	11	4	3	79	14	15	16	6	3	114
R元	1	1	3	1	1	19	1	1	0	0	0	10	10	7	11	4	2	61	12	9	15	5	3	89
R2	2	3	2	1	0	35	-	1	2	1	0	20	10	12	9	3	1	59	12	15	12	4	2	115
R3	4	7	3	2	1	14	1	1	1	0	0	12	11	6	9	2	1	76	16	15	13	4	2	91
R4	7	4	11	1	7	20	-	1	0	-	-	2	9	12	10	2	0	59	16	17	21	3	2	80
R5	5	4	3	2	2	23	1	1	1	1	0	4	10	8	7	3	1	63	16	12	11	6	3	92
R6	3	4	15	1	1	10	0	2	1	-	0	5	9	9	10	2	2	60	13	14	27	3	3	75